

(写真・文 太田祥作)

## サワガニ

(学名： *Geothelphusa dehaani*)

【エビ目サワガニ科】



▲ 長浜地区で採集されたサワガニの雄。雄は鋏脚(かんきやく：通称「爪」)の大きさが左右非対称。

サワガニは淡水に生息するカニとして有名です。ほとんどのカニが海で生活する中で、サワガニ科のグループは生涯を通して陸水に暮らす「純淡水性」のカニとして知られています。海に棲むカニは卵から孵ると「ゾエア」「メガロバ」といったカニらしくない形態の幼生期を経てはじめてカニの姿となります。彼らは幼生期に塩水を必要とするため、海でなければ繁殖できません。ところが、サワガニ科は卵の中で幼生期を終えてしまい、孵化したときには既に立派なカニの姿をしています。また、雌は卵と生後間もない稚ガニを腹部に抱えて保護します。そのため、真水の淡水域でも繁殖することができ、サワガニ科はカニ全体の中では特殊なグループと言えるでしょう。

さて、サワガニは青森県から鹿児島県トカラ列島まで分布する日本固有種です。河川上流から中流に生息し、河床の大きめの石の下や、水際の斜面に穴を掘って潜んでいます。雑食性で、昆虫や貝、水草などを食べます。体色は赤褐色から茶褐色、紫色、青色まで変異に富み、全国各地で地域差があるようです。只見町のサワガニは、一般的に見られる赤褐色タイプが多いように思われます。しかし、体色の傾向を述べる以前に、只見町ではまとまった数のサワガニを見ることができません。支流の沢筋に水網を入れると時々採れることがありますが、生息環境を探しても、狙って見つけるのは容易ではないのです。元来、サワガニは南方系で西南日本に多く、冷涼な東北地方では少ない傾向にあるようです。

かつてサワガニが多産した町内の沢では、2011年の水害を経て今に至るまでほとんど見られなくなってしまったという話も聞かれます。豪雨災害に伴う出水は河床の様相を変えてしまうため、多くの水生生物が影響を受けます。果たして、只見町のサワガニは昔から少なかったのか、それとも水害で減ってしまったのか、興味深いところです。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

10月・11月は下記日程で野鳥観察会を開催します。お誘い合わせの上ぜひご参加ください。事前予約制につき、お電話(只見町ブナセンター：0241-72-8355)にてお申し込みください。

日時・集合場所：10月29日(土)9:00～12:00 楯戸地区集会所駐車場  
11月26日(土)9:00～12:00 「河井継之助記念館」駐車場